

# 公立小松大学の シリコンバレー産官学合同研修プログラム

## ■研究者のプロフィール

公立小松大学  
地域連携推進センター 特任教授

さなだ しげる  
真田 茂

TEL : 0761-23-6600  
E-mail : shigeru.sanada@komatsu-u.ac.jp  
<https://www.komatsu-u.ac.jp/about/facilities/collaboration/>

2019年と2022年産学合同シリコンバレー研修報告書はこちらから  
<https://www.komatsu-u.ac.jp/about/facilities/collaboration/action03.html>



## 研究シーズの概要

### はじめに

シリコンバレーでは、GAFA (Google、Apple、Facebook、Amazon) に代表されるハイテク産業・IT産業が現代の世界の価値と文化を牽引し、これからも世界の社会インフラとして席卷するといっても過言ではありません。また、シリコンバレーのイノベーションの源泉ともいわれるスタンフォード大学が立地し、世界から優れたIT関連人材が集まり、ハイテクベンチャーの起業も非常に活発です。本研修プログラムの目的の一つは、このシリコンバレーのエコシステム（経済的収益、ITデータ連携などの構造）について、まずは現状を知ること、そして、そもそも如何にしてシリコンバレーがそのような場所になり得たのかを現地で体感することです。

### 研修プログラムの概略

本研修プログラムの特筆すべき点は、企業人と学生・教職員とが協働してPBL（課題解決型学習 Project Based Learning）をシリコンバレーにおいて実践することです。企業が提起する課題について、シリコンバレーで共に調査し課題解決の糸口を見出す、という企画です。また学生には、本研修に先立って「グローバル人材と持続的開発プロジェクト」という特別講座（90分×15回程度、岸本昌子特任教授）が開講されています。この特別講座では、「具体的な地域の産業界、行政の課題に焦点をあて、シリコンバレーの先事例や支援体制を参考にしてプ

ロジェクトを計画できるように、問題分析とその解決方法のスキルを向上する」ことを目的としており、学生たちは企業人と



B-Bridge社での講義

の協働に向けて万全の準備をします。

現地研修は、B-Bridge International社（榎本博之CEO、本学特任教授）に開設しました本学シリコンバレーオフィスを拠点に、毎年5日間の日程で行われます。2019年9月に1回目の現地研修を実施し、2022年9月に2回目を行いました。この間、COVID-19の影響により、2020年、2021年とシリコンバレーからのオンラインセミナーを代替企画として継続して実施してきました。以下に5日間の研修プログラムの一部を紹介します。

まず、GAFAなどの企業で働く日本人技術者、シリコンバレー在住の日本人投資家や起業家など、多彩な講師による3～4題の講演があります。シリコンバレーの歴史やエコシステム、日米の大学での学びや企業での働き方の違い、常識を覆す柔軟な考え方や注目の最新技術など、とにかく、ゼロからイチを生み出すための目から鱗が落ちるような生き方、考え方を学びます。

シリコンバレーには興味深い訪問施設や見学施設は枚挙に遑がありません。たとえば、「Googleplex (Google本社)」、「Apple Park Visitor Center」、「Intel Museum」、「Computer History Museum」などのコンピュータ関連企業のビジターセンターや博物館、



Apple Visitor Center における  
日本人社員との懇談会



スタンフォード大学のキャンパス探訪

スタートアップ企業のインキュベーター「Plug and Play」、NASAの研究センター「NASA Ames Visitor Center」などです。しかしこれらはほんの一部で、他にもPBLの課題に関連して、関心のある企業などを個別に訪問してさまざまな情報収集を実施します。

イノベーションの聖地ともいえるべきスタンフォード大学では、思いがけないところに創業当時のYahoo Serverの基板が展示されていたり、歩いているうちにデザイン思考で有名な「d.school」に行き着いたり、キャンパス内のいたるところで見どころが満載です。また、学生や教職員への取材にも事欠きません。

これらの講義やフィールドワークも兼ねた見学などで多くの情報を獲得しながら、研修本体のPBLが並行して進行します。いままで、次のような課題を掲げて企業人と学生たちが協働してPBLを実施

しました。

たとえば、「地方にコワーキングオフィスのビジネスを立ち上げる」、「地域とともに魅力アップする企業」、「組織における女性の割合・女性管理職の割合を上げる」、「カーボンニュートラルに対する意識向上」などです。ほとんどのグループは、シリコンバレーでのさまざまな学びを経て、予想を超えた課題解決の指針が最終プレゼンテーションで提示されました。これに対して活発な議論ののち総括して、5日間の研修プログラムを終えました。

## 研修の成果

学生は以下の学びを体感できました。一つめはシリコンバレーにおけるフィールドワークを活用しながらPBLに取り組める醍醐味。二つめはシリコンバレーが如何にして現代の価値と文化を先導しているのかを“鳥肌もの”で実感できること。そして三つめは、これらの体験を企業人とのグループワークを通じて多様な視点で共有できることです。なかには、将来シリコンバレーで働きたいという学生、いずれは起業したいという学生、そもそもこの研修プログラムが本学を志望する理由の一つだったという学生など、本研修プログラムを契機として多様な学生が百花繚乱となる兆しを感じています。

## 謝辞

本研修プログラムの準備段階からさまざまなご支援を賜りました小松商工会議所・西正次会頭、坂井修専務理事に深謝申し上げます。そして、本研修プログラムの趣旨にご賛同いただき、貴重なスタッフを派遣いただきました株式会社コマツ、小松ウオール工業株式会社、ライオンパワー株式会社、株式会社丸西組、藤井空調工業株式会社、小松電子株式会社に深謝申し上げます。

## 産業界へのメッセージ

本研修の報告会や参加企業人へのアンケート調査により、参加いただいた企業の方々にとりまして、次のような成果が明らかとなりました。たとえば、(1) 現代社会を先導するシリコンバレーの収益構造（エコシステム）や、破壊的イノベーション、デザイン思考などについて理解が深まった、(2) 各自の所属企業や地域の課題解決について、本学（学生および教職員）との協働の可能性を実感できた、(3) インターンシップや求人に関して、本学学生を対象として意識できた、などです。さらにシリコンバレーにおける人的ネットワークも活用しながら、本研修が参加企業の新たな海外展開の一助になれば幸いです。

## 今後の展望

本研修プログラム参加者（参加経験者、参加希望者など）による組織を構築し、研修に関する知識と経験を共有するとともに、さらにそのデータを二次利用できるような体制にしていく予定です。

本原稿執筆時（2023年6月）には、2023年度研修の概略が決まり、新たに小松市職員が参加されることになりました。すなわち、これまで2回の“産学”合同企画が“産官学”合同企画として発展し、小松市とのさらなる強固な連携を図ります。本学としては最も重要な地域連携および教育プログラムの一つとして、この研修プログラムを今後ともさらに充実させたいと考えています。

産学連携をお考えの方は上記または次の担当部署までお問い合わせください。

◎北陸経済研究所 調査研究部

◎北陸銀行 コンサルティング営業部 地域創生室

米屋 TEL: 076-433-1134

山上 TEL: 076-423-7180